

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

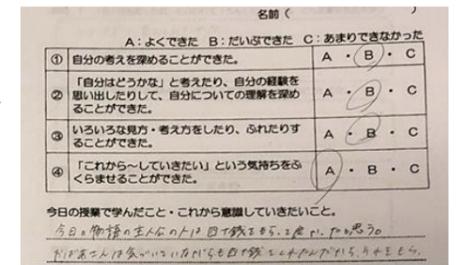
No. D-73

部門名： 4. 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名： 富士見市立富士見台中学校 辻 庸一 平成 30 年度第 3 回副校長・教頭等研修
活動名： 考え、議論する道徳 教科科にむけた指導と評価の工夫	
解決すべき課題： (1) 生徒の実態から 体育祭や合唱コンクールなどの学校行事には、学年の枠を越えて支え合い、一生懸命取り組むことができる。その一方、学習状況調査などの生徒質問紙調査における自己肯定感が低いのが課題である。自ら輝く生徒になるために、道徳の時間を通して豊かな心を育成する必要があると考えた。 (2) 教師の実態から 教科指導や行事の取組の過程において生徒と向き合うことには一生懸命である。その一方、道徳的に価値について改めて生徒に考えさせたり、道徳的実践力を育成したりすることについて、難しさを感じている教員が多いため、本課題を設定することとした。	
目標・方針： 道徳の指導と評価について校内研修を推進することで、教師にとっては来年度からの完全実施に向けた不安が解消され、生徒たちの豊かな心を育み、生徒一人ひとりを輝かせる「考え、議論する道徳科」の授業が行えるようになるであろう。 それに伴い、生徒たちの道徳的心情や道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度を育成できるようになるとともに、よりよく生きるための自己肯定感を高めることができ、生徒が自ら輝こうとする意欲を持てるであろう。	
活動内容： ○有識者を招いた道徳科における指導と評価のあり方についての研修 ○校区の小学校における道徳の授業の見学と意見交換 ○県教委による指導訪問における授業研究（指導案作成、研究協議等） ○保護者に向けた授業公開 ○市教研における研究授業（指導案作成、研究協議等） ○本校における「道徳科」基本方針の作成	
活動の成果： (1) 研究の推進について 指導者として聖徳学院大学教授の吉本恒幸先生に 1 年を通してご指導をいただくことができた。まず、1 学期の指導訪問において各学年の道徳担当教員が授業を実施した。そこでの指導を各学年に持ち帰って授業実践を積み重ね、2 学期の終わりに再度授業研究を行うという、P D C A サイクルを生かした研修を推進することができた。 また、研究授業の際は他のクラスで先行授業が行なわれ、そこでの生徒の反応や感想についての情報交換が積極的に行われるなど、職員室での教員の姿勢にも昨年度までとは明らかに違う変化が見られた。 一方、同一の学習指導案を用いた道徳の授業であっても、生徒と教師の関係性やその時点における学級の実態などによって、授業における議論の深まりが大きく変わってくることも教員が実感するようになった。「考え、議論する道徳」の授業を行うためには教材研究はもちろんのこと、日頃の学級経営や学年経営、生徒指導の必要性などを教員が実感することができた。	



1 学期	4 月 5 月 6 月 7 月	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画の立案と周知 校区の小学校への訪問開始 有識者を招いた校内研修（講演と質疑応答） 指導者 聖徳大学大学院教授 吉本恒幸氏 学校指導訪問に向けた指導案検討の開始 先行授業の実施と有識者による指導講評 指導者 聖徳大学大学院教授 吉本恒幸氏 学校指導訪問における授業公開と伝達講習 1 学期の反省と 2 学期の流れについての検討会 授業アンケートの実施
2 学期	9 月 10 月 11 月 12 月	<ul style="list-style-type: none"> 1 学期の指導と評価についての検討 小学校における道徳の授業の見学 市教研における公開授業に向けた指導案検討会 同学年内における先行授業の実施 市教研における公開授業と研究協議 ※全学年で 1 クラスずつ公開授業を実施 1 学年 富士見市立みずほ台小学校教頭 鈴木孝雄氏 2 学年 聖徳大学大学院教授 吉本恒幸氏 3 学年 富士見市教育委員会指導主事 和智正悟氏 授業アンケートの実施 研究のまとめ 次年度に向けた計画（評価、台中道徳基本方針）の作成
3 学期	1 月 2 月	<ul style="list-style-type: none"> 次年度に必要な教材や資料の点検 次年度への引き継ぎ事項の確認 ワークシート、「道徳ファイル」について 本研究の内容のまとめ及び基本方針の完成と周知

(2) 指導と評価のあり方について
 授業で使ったワークシートを綴じ込む道徳ファイルを用意し、生徒自身によるポートフォリオ評価を推進した。台紙の左側には、いつどのような内容について学習したかを記入し、やがて目次の代わりになるページを用意し、学習の経過を振り返らせるようにした。台紙の右側には毎時間のワークシートを貼り付けていく。ワークシートには、その時間の自分の取組や感想を記入していく。取組を振り返る観点としては、下の写真にあるように自分自身の課題として題材をとらえられているかということを中心に書かせるようにした。これにより、あとから生徒の学習状況の評価がしやすくなったと感じる教員が多かった。
 研修を始める前の調査では、評価の文言について「こう書かなければいけない／こう書いてはいけない」という情報が先行し、難しそうという印象を持つ教員が多かった。しかし、研究を進めていくにつれ、道徳性の定着を評価するのではなく学習状況を評価することという原則を確認できたことにより、教員の道徳の評価に対する意識が大きく変わった。



アピールポイント（アイデアや工夫）：
 ○自校の課題に対して校外の指導者を招くなど意欲的に研修の推進が行えた
 ○副担任や管理職なども道徳の授業に参加する体制が整った
 ○毎学期の通知表に載せる評価文言を生成するエクセルが開発された
 ○職員室で次週の道徳の授業について情報交換をする先生が増えた